

# 層雲峡ビジターセンター



〔大雪高原温泉滝見沼・9月〕

## 葉が赤や黄色になるのはなぜ？

樹木の葉はクロロフィル(葉緑素)という緑色の色素とカロチノイドという黄色の色素をもっていますが、葉緑素の量が多いため、ふだんは緑色に見えます。しかし、秋が深まると、葉緑素が先に分解されてカロチノイドが残るため、葉が黄色く見えます。これが黄葉です。

一方、秋になり寒くなると葉を落とす準備のため、葉柄と枝の境に離層と呼ばれる層ができます。すると、光合成でつくられた糖分などの移動が妨げられて葉に蓄積し、アントシアニンという赤色の色素に変化することがあります。これが狭義の紅葉です。

アントシアニンの生成には日光が関係しており、日当たりがよい葉ほど赤くなり、日陰の葉は黄色くなる現象が見られます。



(高原沼巡りコース沿いにあるナナカマド類の紅・黄葉)

## きれいな紅葉の条件

- ・最低気温が6~8℃くらいまで下がり、日中は太陽がよくあたり、気温が上がること。
- ・夜から明け方にかけて気温がぐっと下がること。

適度な湿度も必要なので、湖沼や川などでは、紅葉はよりきれいに見えます。



## もっと知りたい！層雲峡

～当センターのスタッフが、皆さんに知ってほしいことや  
あまり知られていない層雲峡のあれこれをご紹介します～

### ライマンと尾崎行雄

観光で訪れる人はまず立ち寄らない場所ですが、ライマン橋と尾崎行雄の歌碑を紹介します。

層雲峡から大雪ダムへ向かって銀河トンネルを抜けるとすぐ右側にある駐車帯に車を止め、横断歩道を渡ると、新大函トンネルの手前に「ライマン橋」があります。橋の名前は米国生まれの地質学者ベンジャミン・スミス・ライマンにちなんで付けられています。

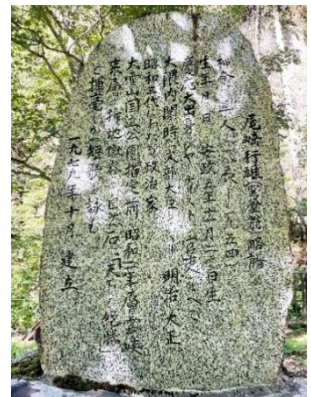
ライマンはいわゆるお雇い外国人として、明治の初期に来道し、鉱物資源の調査や地質図の製作をしました。石狩川水系から分水嶺を越えて十勝川水系へと抜けた地質調査行の日記は、確実に源流を詰めた記録としては最古のものとみなされています。ちなみに橋名のローマ字表記は「Raiman Bridge」となっていますが、彼の名字は「Lyman」です。

ライマン橋から石狩川の右岸づたいに、いまは通行止めになっている旧道が伸びていますが、施錠されたゲートのすぐ脇に「天下の絶勝」と書かれた歌碑がひっそりと佇んでいます。よく見ると、歌碑の上部には「天地をつくりし神が休み日に 試したまへる手すさびの跡」と刻まれています。

歌碑の裏側を見ると由来が書いてあり、政治家でジャーナリストでもあった「憲政の神様」尾崎行雄が昭和二年に層雲峡を訪れた際に、地獄谷の自然石に揮毫したものを、1979年にここに移設して建立した旨が記されています。当時はこの旧道が国道として利用されており、道路脇に駐車して写真を撮る観光客もたくさんいたようです。古い絵葉書のなかにはここで撮られたものもあり、往時を知る縁（よすが）となっています。（佐久間）



〔歌碑・表側〕



〔裏側〕

### 成体になると色、模様が変わる！？

ヒガシニホントカゲとオオルリ。どちらも層雲峡で見かける生きものです。

9月の中旬、紅葉谷周辺を歩いていると、尻尾の青いヒガシニホントカゲの幼体を発見！尻尾の色の鮮やかさに目を奪われました。成体の体の色とは全く異なるため、初めて見た方は同じ種だと思わないかもしれません。

オオルリも成鳥はお腹が白く、羽は光沢のある青色をしています。幼鳥は翼や尾などに青い羽根があるほかはオリーブ褐色の斑模様です。これは「雛換羽」といって、雛の羽毛が徐々に抜け落ち、新しいおとなの羽根に生え換わる現象なのですが、成鳥と幼鳥の姿が違いすぎて、初めて見た方は驚くのではないのでしょうか。

《ヒガシニホントカゲ》

(成体)

(幼体)



《オオルリ》

(幼鳥)



(成鳥)



〔お知らせ〕 当館は現在、外壁の大規模修繕等の工事を行っています。そのため、敷地内に工事関係の機材等が置いてあり、駐車場が利用できない状態となっています。

ご不便をおかけして申し訳ありませんが、車でお越しの際は、層雲峡温泉街の公共駐車場をご利用ください。

### 層雲峡ビジターセンター

電話 01658-9-4400

ウェブサイト <http://sounkyovc.net>

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡